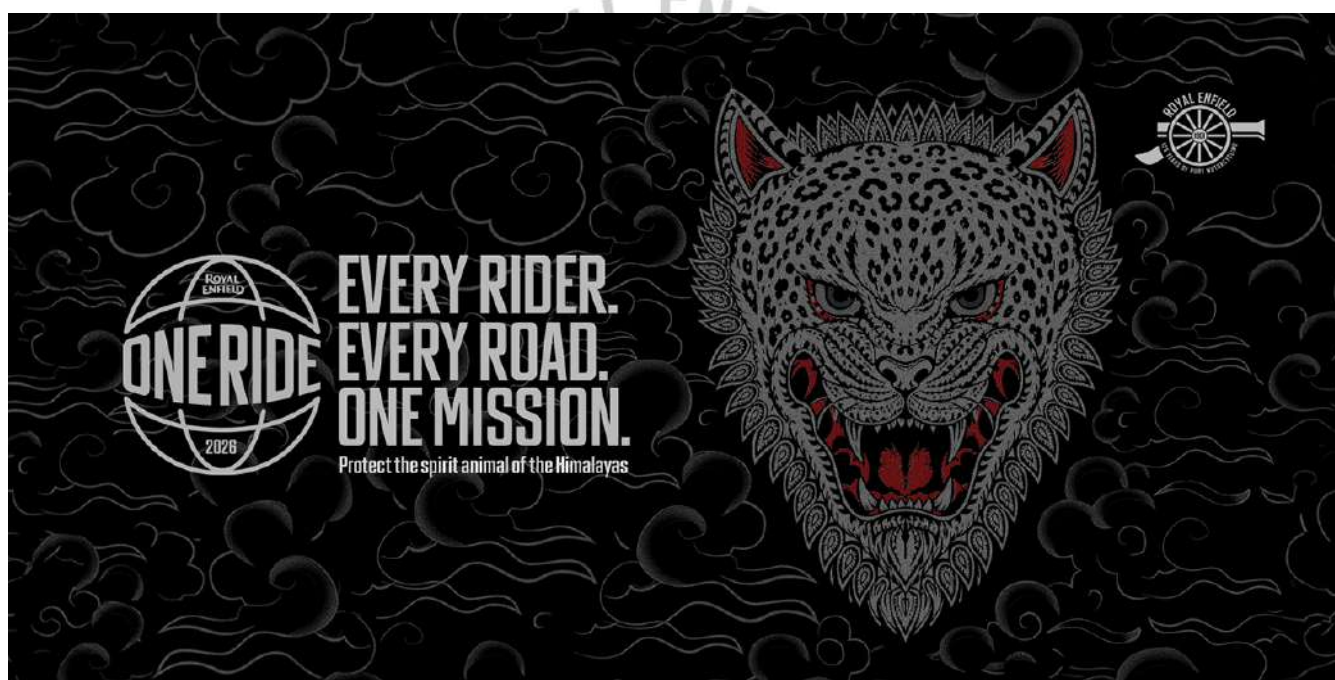


ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

2026 年 9 月 15 日

PCI-RE2026028

ONE MISSION, ONE RIDE 創業 125 周年のロイヤルエンフィールド、 世界同時開催のライドイベント「One Ride 2026」を通じて ユキヒョウ保護活動を支援



- 創業 125 周年を記念し、ロイヤルエンフィールドは世界各地で開催される「One Ride 2026」の参加者数に応じて、ヒマラヤに生息するキーストーン種「ユキヒョウ」の保護支援をさらに加速
- One Ride は、世界中のロイヤルエンフィールド・ファンが、同日に走る世界最大のバイクコミュニティ。世界 60 カ国で開催し、1600 を超えるグループが世界中を駆け巡ります
- One Ride2026 への参加詳細はこちらから <https://royalenfield.com/oneride>

2026 年 9 月 20 日、世界中のロイヤルエンフィールド・ファンが、同日に集うライドミーティング「One Ride 2026(ワンライド)」を開催します。世界 60 カ国で開催し、1600 を超えるグループが世界中を駆け巡り、性別や年齢、文化を超えたライダーたちをつなぐ、モーターサイクルの魅力を発信します。

ロイヤルエンフィールドのブランド創立 125 周年となる今年、この One Ride は、より大きな役割を担います。それはキーストーン種であるユキヒョウと、その生息地であるヒマラヤ地域の生態系の保護を支援します。

ロイヤルエンフィールドのブランド戦略の責任者である Mohit Dhar Jayal(モヒト・ダール・ジャヤル)は、次のように述べています。

「ヒマラヤは、ロイヤルエンフィールド・コミュニティにとって特別な場所であり、ライダーたちにとって憧れの地であり続けてきました。しかしユキヒョウにとってそこは揺るぎない故郷であり、生活の場でもあります。我々ロイヤルエンフィールドはブランド創業 125 周年を迎えるにあたり、One Ride 2026 を通じて、そこで育む絆と、それに伴う責任を、世界中のライダーコミュニティと共有したいと考えています。私たちとヒマラヤとのつながりは、単にその風景の中を走り抜けることにとどまりません。今年、私たちはそのつながりをさらに一歩前進させます。One Ride 2026 への参加者 1 名につき、ロイヤルエンフィールドによるユキヒョウ保護への支援を増やします。私たちの One Ride というアクションが、この素晴らしい生態系を守るための有意義な一歩となるのです」

いまやツーリングのメッカとなっているインド・ヒマラヤ地域は、単にバイクで走り抜けるための場所ではありません。そこは、何世代にもわたって共存してきた地域社会と野生生物の生息地なのです。特にキーストーン種であるユキヒョウは、この生態系の繊細なバランスを維持するうえで極めて重要な役割を果たしています。ロイヤルエンフィールド・ソーシャル・ミッションを通じてこの地域で長年にわたり行ってきた保全活動を基盤とし、今年の「One Ride 2026」では、一人ひとりのライダーの参加がこのキーストーン種の保護に直接つながるよう取り組みます。つまり、ロイヤルエンフィールドのライドを社会貢献の機会に変えるのです。

ユキヒョウは、ヒマラヤ高地のキーストーン種。現在インドで確認されている生息数は 718 頭です。ロイヤルエンフィールド・ソーシャル・ミッションは、地域社会による保全プロジェクトを通じて、ヒマーチャル・プラデーシュ州、ラダック、ウッタラーカンド州、シッキム州、ジャンムー・カシミール州で活動し、ユキヒョウの生息地保護の活動を行っています。現在の取り組みは 10,500 平方キロメートル以上の生息地を対象としており、そのうち 53 平方キロメートルが同社の地域社会による保全プログラムの対象となっています。

<ロイヤルエンフィールドについて>

1901年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling／ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650 パラレルツインモーターサイクルの「BULLET 650(ブリット・ロクゴーマル)」、「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」、「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)」、アイコンックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアン クラシック・サンゴーマル)」、「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル)」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル)」があります。また我々は2024年に、新しいシティ&電動モーターサイクルブランド『FLYING FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年11月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗を構え、世界60カ国以上に850近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランディングソープとインドのチェンナイに2つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの6ヶ所に近代的なCKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalfield.co.jp>

全国のROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先：ロイヤルエンフィールドジャパン(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalfield.co.jp>